

令和3年度 第71回“社会を明るくする運動”作文コンテスト  
中学校の部【県最優秀賞】

「理解の重要性」

鏡原中学校 3年 友利 美月



私の弟は発達障害として生を受けました。イケメンで、背丈など、体格も一見普通の子と変わりません。とてもかわいいです。そう解ったのは弟が三歳のころ。他の子と比べて比較的しゃべるのが遅く、嫌な事物を壊したり、叫んだりする子でした。しゃべれない分、嫌だと感じると、噛んだり、壊したりするしか表現する方法がないのでしょうか。一番酷かったのが酷いのは、テレビを割ったり、私のゲーム機を割った時でした。

弟はなぜ分かってくれないのか、伝わらないのか、という怒りを分かってあげられない私達は、どうすることもできませんでした。

4歳になり、弟は病院に通うようになりました。言葉もしゃべれるようになり、なによりゲームがとても上手でした。ゲームでは自分がコントローラーを握り、自分の思い通りに動かすというところに楽しさを感じたのでしょうか。私自身もゲームが好きだったので、よくしゃべったり、ほめたりしました。

小学校に入学し、弟は特別支援教室に入りました。人々の理解が必要であり、登校拒否にかわいそうだからです。友達もできたと、楽しそうに話しています。友達と一緒に楽しく勉強するには文字を覚えなければなりません。でも、集中力がないため、すぐふざけたり、怒ったりしていました。弟は普通の子よりも何倍も努力しないとイケません。克服するために、いくつか文字を覚えるとほめ、問題がとけると一緒に喜んだりしています。ほめてほめてほめちぎります。

弟のような子は、大抵の家庭では、うちの子は発達障害なはずがない、そんなはずがないと、目を背け、理解されないまま育ち、登校拒否になってから小児科の専門の先生に相談に連れて来られる方が多いそうです。そういった場面になった時、やはり辛いのは親ではなく、子の方です。

そういう子たちに、なぜできないのか、と手を上げる親も少なくないようです。「躰」というひとくくりの言葉でまとめるのではなく、なぜできないのだろうかと言葉をたて、その子に向けた対処法を考え、向き合う。この子供たちを理解し歩みより添うことが、私は大事だと身をもって感じています。今、この社会で性別に関する問題や障害に対する問題、さまざまな問題があります。生きていく以上、私達は支え合えあいながら共に生きなければならない

と思います。

その事が、これからの社会にとってとても重要だと思います。重く考えることはないと思います。支え合うには理解が必要です。子供達が未来を楽しく過ごすために、まずはやさしく理解してあげて、歩み寄るのが一番大切なこととも思います。ほめてほめてほめちぎります。

この優しく理解する気持ちで、弟や周囲をも包み込み、みんなで支え合いながら、明るい社会にすることが私の希望です。